

[図画工作・美術]

図画工作科と総合的な学習の時間との「関連单元」から 「生きる力」を培うカリキュラム構想

—教科の資質・能力に着目して—

加藤 啓*

1 問題の所在

小学校学習指導要領における、図画工作科の目標には「つくり出す喜びを味わう」という文言が含まれている。これは、子どもにとって創造活動そのものが楽しいことを示しており、図画工作科の活動は子どもの「楽しい」「やってみたい」という思いに支えられている。しかし、実際の図画工作科の授業はどうであろうか。増田 (2015)¹⁾は、今日の図画工作科における問題点として「保護者や社会に教科として重視されない」「授業時数の少なさ」に加えて「『何でもあり』とする教師の姿勢」を挙げている。実際、学校現場では文化祭やコンクールに出品するために、子どもの作業に任せた放任の授業や、限られた時数の中で技能面ばかりに重きを置いた作品主義的な授業が繰り返されているのではないだろうか。

「生きる力」を育むという理念のもと創設された総合的な学習の時間では、子ども自身がテーマにかかわる問題を見いだし、主体的に自分の力で解決に向けて追究する姿が求められている。また、図画工作科においては、自らの感性を働かせながら身体全体で対象と関わり、自ら学び、考え、表現しながら学習を進めることを子どもの目指す姿としている。つまり、図画工作科とは、総合的な学習のねらいにある「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考える」ことと密接に関連している教科といえる。

総合的な学習の時間においては、他教科で習得した知識や技能等を必要に応じて取り出し、関連付け、学習に生かしていくことが求められる。葉倉 (2002)²⁾は総合的な学習の時間と教科との連携を「学習課題の関連」「学習内容の関連」「資質・能力の関連」という3つのタイプに分類している。「学習課題の関連」と「学習内容の関連」は学校現場においても比較的多く取り組まれている。しかし、「資質・能力の関連」については、言葉のもつスケールが大きいためか、具体的なイメージや活動をつくりにくい。本来、総合的な学習の時間は、各教科で育成した資質・能力が実際の場で生きてはたらく体験をすることで、実践的な資質・能力を育てることをねらいとして創設されたはずである。教科と総合的な学習の時間を「資質・能力」に着眼しながら結び付けることで、互いの「持ち味」をより引き出し、子どもの学びに生かせると考える。

そこで、本研究では図画工作で身に付けられる資質・能力と総合的な学習の時間の関連を図ることで、教科の相互のねらい達成に有効な取組が期待できると考え、実践に取り組んだ。

2 研究の目的

総合的な学習の時間の活動と図画工作科で身に付けられる資質・能力を関連させたカリキュラムを作成、実践することで、教科の活動が深化、拡充することを検証する。

3 研究の内容・方法

- (1) 総合的な学習の時間と、図画工作科で身に付く資質・能力の関連を図った単元のモデルプランや年間計画を作成する。
- (2) (1)で作成した、総合的な学習と図画工作を関連させた実践を行い、その有効性を分析・検証する。

4 図画工作科で培う資質・能力

図画工作科で培う資質・能力は、学習指導要領における各学年の目標が示している。総合的な学習の時間において関連を図る資質・能力は、主に目標 (2) 表現活動を通して培う資質・能力として捉えられる。そこで、図画工作科における資質・能力と総合的な学習の時間における子どもの姿に重ねながら以下に活動のイメージを表す。

(1) 発想の能力

発想の能力とは、造形活動で用いる材料や対象などから想像力を働かせて、自分なりの考えをつくりだす力である。総合的な学習の時間では、対象との出会いを通し、対象がもつ価値について子どもが自分なりに意味付け、対象を色や形で表現する活動などが考えられる。

* 上越市立直江津小学校

(2) **構想の能力**

構想の能力とは、自分の表したいことの主題や用途などを表すために、およその計画を立てたり、つくりながら順番や組み立て方を考えたりする力である。総合的な学習の時間では、様々な人、情報などの対象とかかわり合う中で、人々の思い、環境や場所の様子などをもとに、どのように表現ができるかを見通して、計画を立てる活動などが考えられる。

(3) **創意工夫の能力**

創意工夫の能力とは、これまでの造形活動の経験などを生かして、いろいろな材料を選んだり、新しい用具を使ったりしながら、表し方などを工夫する力である。総合的な学習の時間では、対象に積極的に関わり働きかけながら、課題解決に向けて探究し、自分の思いが伝わるように、新聞、ポスター、絵などに表現する活動などが考えられる。

(4) **創造的な技能**

創造的な技能とは、発想、構想、創意工夫の能力が一体となってはたらき、表し方の工夫をしたり、豊かな表現を生み出したりする力である。総合的な学習の時間では、それまでの経験や身に付けた技能を総合的に働かせ、学んだことを他者に伝えるために表現する活動などが考えられる。

5 図画工作科と総合的な学習の時間の関連を図るカリキュラム構想

(1) 総合的な学習の時間の活動テーマ 「直江津とわたしの未来を見つめて」(全70時間)

(2) **ねらい** 直江津地域の歴史や現状を見つめ直し、自分たちの地域のよさを再発見しながら、よりよくしようとする具体的なプランを提示する実践的態度を育てる。

(3) **活動の概要と評価規準**

- ・地域活性化に携わる人たちとかかわり、調査や体験を通して、対象への見方・考え方を広げたり深めたりする。(学び方やものの考え方)
- ・地元直江津地域のまちづくりに関心をもち、課題や問題点を見出し、その解決に向けて自分なりの考えを明らかにしながら活動に取り組む。(問題解決能力)
- ・必要な情報を収集、整理したり、調べて分かったことを相手に分かりやすく工夫して伝えたりする。(情報活用能力)
- ・様々な調査活動や体験活動を通して、地域に対する自分の思いや未来像について、考えの変化や深まりに気付く。(自己の生き方)

(4) 図画工作科との関連を図るうえで留意する点




① 「関連単元」の創造

図画工作科の活動と総合的な学習の時間の活動で、学習内容の関連を図った単元を創造する。図画工作と総合的な学習の時間の授業時数を重ね合わせ、総合的な学習の時間におけるテーマをもとに、様々な造形活動をダイナミックに仕組むことで、子どもたちが図画工作科における資質・能力を発揮し、学びの実感を理解を伴いながら活動に取り組むことをねらう。

② 教科の特質とねらいの留意

「関連単元」における活動を構想する際、ねらいを明確に位置付け、「活動ありき」のいわゆる「はい回る」活動とならないように留意し、構想する。

(5) 図画工作と総合的な学習の時間の関連を図ったカリキュラムモデル

- *  図画工作科で培うどの資質・能力が関連しているかを示す。
- *  総合的な学習の時間における単元を示す。
- *  総合的な学習の時間と図画工作科の学習内容を関連させた「関連単元」を示す。
- * 総合 () 図工 () 総合的な学習の時間と図画工作科のそれぞれの時数を示す。

	図画工作科における資質・能力	総合的な学習の時間活動内容 「直江津とわたしの未来を見つめて」	他教科との関連
課題 発 見	集めた情報から、課題やよさを考える「発想の能力」 集めた情報を整理し、そこから課題解決の方法を探る「創意工夫の能力」	「直江津」ってどんな町？ ≪関連単元①≫ 総合 (8) 図工 (4) 「わたしの直江津箱庭づくり」全12時間 ○ねらい 直江津地域の歴史や現状を自分なりにとらえ、地域の良さを見つけ、直江津の町をイメージした箱庭を作成する。 ○活動の概要 紙粘土を使い直江津の町をイメージした箱庭を作成する。	・直江津の歴史と現状についての講話を聞く。 ・マップを見ながら、ガイドさんとともに街歩きをする。
		国語「学級討論会をしよう」 目的に応じて話したり、聞き分けたりする力	

	<p style="text-align: center;">調べよう直江津の町づくりの取組</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>集めた情報を選択し、見通しをもって考える「構想の能力」</p> <p>考えたことをもとに、それを表現する「創造的な技能」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《関連単元②》 総合 (12) 図工 (6) 「魅力発見！ウキウキ直江津ウォッチング」全18時間 ○ねらい お話を聞いたり、調べたりしたことから、自分が人に伝えたい直江津の魅力を見つけ、絵に表す。 ○活動の概要 町づくりについて学んだことをもとに、直江津の魅力を表す一場面を切り取り、見た人に伝わるよう工夫しながら色紙に描く。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の方や町おこしに取り組んでいる方に調査をする。 ・商店街の取組や、まちおこし関連イベントについて調べる。 </div>	
<p>課題追究</p>	<p style="text-align: center;">追跡！直江津まちづくり</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>必要な情報を集め、計画を立てる「構想の能力」</p> <p>考えたことをもとに、それを表現する「創造的な技能」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《関連単元③》 総合 (15) 図工 (6) 「直江津見所パンフレット」全21時間 ○ねらい 自分が考える直江津の魅力について、興味をもって調べ、それをパンフレットに表す。 ○活動の概要 他の地域に住む人たちに、直江津の魅力を伝えるためのパンフレットを作成する。また、パンフレットを作成するためにインタビューをしたり、調べ活動をしたりする。</p> </div> <p style="text-align: center;">直江津まちづくりみらいプロジェクト</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《関連単元④》 総合 (16) 図工 (4) 「魅力発信！直江津茶屋」全20時間 ○ねらい 自分たちが調べたことをまとめ、描いた作品や作成したパンフレットを紹介することで、他者へと発信する。 ○活動の概要 直江津の魅力を伝えるためのお茶屋を、宿泊体験活動で訪れる東京で行う。お茶屋では、直江津のお菓子を販売し、子どもたちが作ったパンフレットや描いた絵を飾る。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・東京で直江津の町を紹介するためのパンフレットづくり。 ・直江津の町づくり活動に興味をもったことについて調べる。 ・東京の商店街の取組や工夫について調査しまとめる。 ・調べたことをもとに、直江津をPRするための新企画を提案、実践する。 </div>	<p>国語「ようこそわたしたちの町へ」 目的に合った情報を適切に選択し活用する力</p> <p>算数「資料の調べ方」 関係や決まりをとらえ、筋道立てて考える力</p>
<p>まとめ・表現</p>	<p style="text-align: center;">語り合おう！直江津の将来と自分の未来</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>集めた情報を選択し、見通しをもって考える「構想の能力」</p> <p>考えたことをもとに、それを表現する「創造的な技能」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《関連単元⑤》 総合 (9) 図工 (6) 「12年後のわたしと直江津未来予想図」全15時間 ○ねらい これまでに学習してきたことや、関わってきた人たちの思いなどから、直江津の未来の姿を想像し、絵や立体に表す。 ○活動の概要 未来の自分の姿と、直江津の様子を想像し絵を描いたり、立体作品を作成したりする。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に伝える、広める、宣伝する。 ・直江津、自分の未来予想図の作成 </div>	<p>国語「未来がよりよくあるために」 互いの考えを交流し合い、自分の表現に役立てる力</p>

<p>集めた情報を整理し、そこから課題解決の方法を探る「創意工夫の能力」</p> <p>考えたことをもとに、それを表現する「創造的な技能」</p>	<p>《関連単元⑥》 総合 (9) 図工 (6)</p> <p>「直江津アート商店街」全15時間</p> <p>○ねらい 学んできたことをもとにして、自分たちの住む直江津の町をよりよくするための方法を考え、実践する。</p> <p>○活動の概要 直江津の町を元気にするために、商店街に絵や立体作品を展示したり、ストリートアートなどのワークショップを企画したりする</p>	
---	---	--

5 授業実践

4月に子どもたちに「直江津の町をもっと活性化するにはどんな取り組みができるだろうか。」と投げかけた。すると、子どもたちは「お店をつくる。」「新しい商品を開発する。」「有名な人を招いてイベントをする。」「ゆるキャラをつくる。」など様々なアイデアを挙げた。その中でも「自分たちでお店を出してみたい。」という思いが強いようであった。そこで、子どもたちの活動は、9月に行く宿泊体験学習で直江津の魅力をPRする絵やパンフレットを飾ったお店を出そう、という目標のもとスタートした。

(1) 授業実践1

【単元名】魅力発見！ウキウキ直江津ウォッチング

【用具】色紙、クレパス、絵の具、クレヨン、ボールペン

子どもたちに直江津の魅力を聞いたところ、上越市立水族博物館や7月に行われる直江津祇園祭など、様々なことが挙げられた。その後、街歩きをしたり、祭の代表の方や水族博物館の建設に関わっている方から話を聞いたりして、さらに直江津の町の魅力について掘り下げる活動を行った。そして、挙げられた直江津の魅力の中から一つを選び、それを色紙に絵で表す活動を行った。普段扱う機会の少ない、色紙に絵を描くということや、全く知らない他者から見られるということから、どの子も緊張感を持って活動を進めていた。題材を決める際には、どの子も人とは違う自分だけの“直江津の魅力”を伝えたいという思いから、クラス19人全員が違うテーマの絵を描くこととなった。下描きをした後、直江津地域で活躍するイラストレーターの方をお招きし、描き方の指導をしていただいた。完成した絵には、地域の方から指導していただいた俳句を添え、自分が考える“直江津の魅力”を表す色紙が完成した。

① A児の場合

A児は、直江津の魅力を紹介するためのテーマとして「直江津祇園祭」を取り上げた。A児自身も毎年直江津祇園祭に参加しており、非常に強い思い入れのある地域行事である。そのため、直江津の魅力を紹介すると決まったときからずっと「直江津祇園祭について紹介したいです。」と意欲を見せていた。A児は絵を描くことは得意であるが、作品に対する思いが希薄で、それまでの図画工作の活動では、すぐに「先生できました。」と言って制作を終えてしまう子であった。しかし、今回の作品づくりでは、自分が参加している町内の屋台を描くために熱心にインターネットで画像を探し、「この角度から描きたいんだよ。」と、こだわりをもって制作を進める様子があった。また、祭の代表の方から「直江津の祭には屋台、花火、神輿がある。この3つが同時に見られるのは他の祭にはない魅力である。」というお話を聞き、「写真には無いんですけど、後ろに花火を描いてもいいですか。」と、「屋台」と「花火」という自分が考える、祇園祭の魅力が最大限に表れる構図を考えた。そして様々な友達に「この写真ってどの町内の屋台。」と聞いたり、「ここの部分ってどうなってたっけ。」と相談したりしながら最終的な構図を決定した。(図1)。

② B児の場合

B児は、図画工作に対して苦手意識をもっている子どもで、絵のテーマを与えても「何を描けばいいかわかりません。」といて手が進まなかったり、隣の人の作品を見てそれを模倣して作品を完成させたりする子であった。今回の活動では、「雁木」をテーマに選んだ。雁木をテーマにしたのはクラスで一人だけであり、街歩きをしているときから「先生、雁木ってめずらしいですよ。直江津の魅力になりますか。」と興味をもっている様子であった。B児が、教師の働きかけなしに自身で描きたい対象を選んだのは、それまでの図画工作の活動では見られないことであった。また、ただ雁木だけでなく、雨を描き入れたこともB児自身



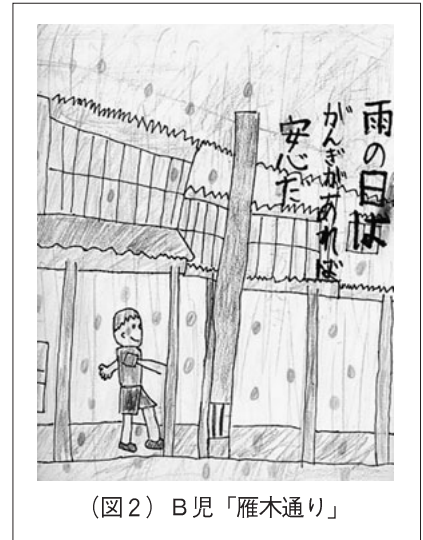
(図1) A児「直江津祇園祭」

のアイデアによるものであった。雁木は何のために設置され、どんな点で直江津の特色を表しているのかという、総合的な学習の時間における学びを、絵に表すことができた。B児は普段授業で積極的に発言する子どもではないのだが、イラストレーターの方を招いて上手な描き方を指導していただいたときには「雁木を描くコツは何ですか。」と質問し、教えていただいたことに熱心に耳を傾けていた。そして「風景だけでなく、そこで暮らす人を描くことで、もっといい絵になるよ。」というアドバイスを受けて、作品を完成させた(図2)。完成までの間「何を描けばいいですか。」といった言葉は、一言も発せられることはなかった。

(2) 授業実践2

【単元名】魅力発信！直江津茶屋

完成したイラストは宿泊体験学習で行った直江津茶屋に展示をした(図3)。直江津茶屋では、子どもたちが作成した、直江津の魅力について紹介したパンフレットと色紙を飾り、直江津のお菓子を販売する活動を行った。子どもたちは、自分たちの町を少しでも知ってもらおうと、お客さん呼び込んだり、色紙やパンフレットの説明をしたりしていた(図4)。多くのお客さんが足を止め、子どもたちの話に耳を傾けてくれた(図5)。また、お客さんからは色紙について「なぜこれを描いたの。」「この神社はなぜ有名なの。」というように質問がされ、子どもたちは色紙に描かれていることについてパンフレットを見せながら説明をしていた。直江津茶屋の活動はクラスを3つの班に分けて行ったため、自身が描いた色紙以外についても質問があり、子どもたちは友達が描いた色紙についても、自分なりの解釈で説明をしていた。普段の図画工作の授業では、クラスの友達や文化祭の展示などでしか自分の作品を見せることのない子どもたちだが、多くの、また全く知らない人たちに自分たちの思いのこもった作品を見てもらうことで、自分の表現に自信がついたり、自己のよさに気付いたりすることへとつながった。



(図2) B児「雁木通り」



(図3) 直江津茶屋
(直江津を紹介するためのアンテナハウス)



(図4) 色紙を説明する子どもたち



(図5) パンフレットを熱心に読むお客さん

6 考察

(1) 図画工作科の活動における深化、拡充

① 十分な時数の確保の実現

総合的な学習の時間と関連させた活動を行うことで、普段の図画工作の授業ではできないようなダイナミックな単元を展開することができた。時数の削減により週2時間の活動ができなくなった図画工作科において、時数の確保は避けては通れない課題である。総合と関連した単元を構想したことで、対象に対して身体の諸感覚を働かせながら関わり思いを広げ、つくり、つくりかえ、つくり続けながら自らの表現を追究するという、図画工作科のもつ良さを十分に発揮させる活動を展開させることができた。

② 作品への思いを豊かにする活動の充実

色紙づくりで、それぞれの子どもが描くテーマを決定する発想の段階では、どの子も人とは違う自分なりの町の魅力を伝えようという意識で活動を進めた。構想の段階においても、構図を考える際に、「なんとなく」ではなく、自身の思いをもって、計画を立てる姿があった。これらは、子どもたちが主体的に活動を進めるという、図画工作における目指す姿であるといえる。

作品作りにおいて大切になるのが、「なぜ描くのか」という目的意識である。高学年という発達段階では、子どもたちは自分の作品を第三者的に振り返ったり、集団や社会などとの関係を意識したりすることで、苦手意識をもったり、感じたことや考えたことを表現することを躊躇したりするようになる。低、中学年のように、ストレートに自らの表現を楽しむという段階から一つ上の

ステージへ上り、他者意識をもって表現活動を進めるためには、作品に対する自らの思いを明確にする必要がある。総合的な学習と関連し、全く別の環境で暮らす人に、自分たちの町を紹介するという活動を仕組んだことで、「魅力を伝えるにはどんな工夫が必要なのか。」と試行錯誤しながら作品制作を進める姿が見られた。

③ コミュニケーションによって生まれる作品への価値創造

普段の図画工作の授業では、完成した作品を展示し、それを鑑賞するという一方通行の評価活動を中心としている。直江津茶屋の実践では、作品を媒体としてお客さんとコミュニケーションをとりながら活動が展開された。「なぜこの題材を選んだのか。」「この構図にはどんな意味があるのか。」といったことをお客さんと会話することで、子どもたちは自然と自身の作品を振り返る。他者に“伝える”という目的意識をもちながら自身の作品を振り返ることにより、相対的に“自分らしさ”を意識して、作品に新たな価値をもたせることができた。

(2) 総合的な学習の時間における深化、拡充

① 主体的な探究活動の展開の充実

総合的な学習の時間では、探究的な学習をすることが重視されている。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究の過程を繰り返し、自己の生き方を考える子どもを育てていく。対象との関わりから発想し、集めた情報から構想をして、技能を駆使しながら絵や立体に表現するという今回の活動は、総合的な学習の時間でねらう探究的な学習と合致するものであり、子どもたちの探究活動を継続させることへとつながったと考えられる。

② 身体における全ての感覚を総動員させる体験的な活動の実現

活動を進めていくときに、子どもたちの中には「表現したい」という思いが生じてくる。図画工作と総合的な学習の時間を関連させることで、その思いを原動力に子ども自身の力で活動を進めていくことができたのではないかと考える。絵や立体に表すといった表現活動はすべて体験的で、体の諸感覚を総動員して行われる活動である。体験的に対象と関わることで、総合的な学習の時間のねらう「生きる力」を育むための、実感をともなった理解へとつながる活動が展開できた。

7 おわりに

変化の激しい時代の中で社会を担う子どもたちに必要なのは、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力などの、「生きる力」である。今回の実践を通して、私が最も強く感じたことは「やりたい」という思いで突き動かされる子どもの学ぶ姿を大切にしていくことである。図画工作の学習においても、総合的な学習の時間においても、子どもの内面から湧き上がる思いを大切に指導していくことは、子どもの探究活動を支え、「生きる力」を育む最も大切な要素であるといえる。そんな子どもたちの主体的な学びの姿をめざし、今後も授業実践に取り組んでいく。

¹ 増田金吾編著、橋本美穂、田中智志監修「教科教育学シリーズ⑧図工・美術科教育」2015、14～16pp

² 葉倉朋子、小池優一、白井理、行川博幸、前島和樹、吉田和江、大平眞史、河野勝彦、佐藤裕之、篠原満、鉄指美登利、山田義弥「教科と『総合的な学習の時間』の関連を図った教育課程の編成一資質・能力に着目した関連を目指して」川崎市総合教育センター研究紀要第15号、2002、22～23pp

〈参考文献〉

- ・安彦忠彦監修、藤江充、三澤一実編著「小学校学習指導要領の解説と展開 図画工作編」教育出版、2008
- ・鹿児島県総合教育センター「図画工作科で育成する資質や能力についての考え方とその指導法—発想や構想の能力及び創造的な技能、鑑賞の能力—」2009
- ・総合的な学習実践向上研究会「平成20年小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり総合的な学習」2009
- ・行川博幸、鈴木信一郎、浦海民江、和田朝彦、佐藤利行「図画工作・美術科と『総合的な学習の時間』とのかかわりを探る—図画工作・美術科で身に付けた基礎・基本を生かした『総合的な学習の時間』の在り方—」川崎市総合教育センター研究紀要、2001
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成20年8月）」日本文教出版
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成20年8月）」日本文教出版